

第21回白馬村地域公共交通会議 会議概要			
招 集 年 月 日	平成29年11月1日(水)		
招 集 の 場 所	白馬村役場302会議室		
開 催 時 間	午後3時～4時15分		
委 員			
白馬村長		下川 正剛	○
長野県企画振興部 交通政策課長		丸山 賢治(代理大平)	○
北アルプス地域振興局長		久保田俊一(代理坂田)	○
大町建設事務所長		清水 孝二(代理徳武)	○
大町警察署白馬村交番所長		小林 正之	
アルピコ交通(株)		津山 建次	○
アルプス第一交通(株)		上條 良民	○
アルピコタクシー(株)大町支社		薄井 浩章	○
白馬観光タクシー(株)		風間 雅裕	○
(社)長野県バス協会		倉島 義和	
長野県タクシー協会		耳塚 喜門	○
公募委員		速水 政文	
公募委員		渡邊 宏	○
北陸信越運輸局長野運輸支局長		松本 昭弘(代理景山)	○
アルピコ労働組合川中島バス支部		狩所 直樹	
信州アルピコタクシー労働組合		海端 浩二	○
白馬村観光課長		横山 秋一	○
白馬村健康福祉課長		窪田 高枝	○
事務局			
白馬村総務課長		吉田 久夫	
白馬村総務課企画係長		田中 洋介	○
オブザーバー			
白馬村役場観光課観光係長		長澤 肇	○
白馬村健康福祉課課長補佐		太田 雄介	○

進行：総務課長代理企画係長

1. 開会

風間副会長

2. 会長あいさつ（村長）

今年こそは順調な降雪を期待し、多くのお客様に白馬の冬を楽しんでいただけるよう、万全の準備を進めたい。本日の地域公共交通会議は、デマンド型乗合タクシー関係の報告と、ナイトシャトルバスの運行計画についてご協議いただきたい。デマンドタクシー、ナイトシャトルバスは、白馬村の主要な交通施策として定着している。事業を継続して運行していくためには、様々な課題を検討、改善していく必要がある。少子高齢化の影響もあり、現在開催している地区懇談会でも意見があるが、村全体の公共交通のあり方を見直す時期に来ており、藤本副村長を中心として取り組んでいく。後程S Bドライブとの自動運転の取組みと共に、今後の方向性等を報告する。委員の皆様からいただく客観的なご意見は貴重なので、本日は活発なご議論をお願いしたい。

3. 報告事項

（会長進行）

平成28年度デマンド型乗合タクシー等について、健康福祉課長より説明。

登録者数：700名新規登録51名、登録抹消43名、80歳代が最多。

利用者数：7,855人（前年比▲226人）、目的地は病院が多い。

～質疑・意見～

Q：1便あたりの平均乗客数は？（渡邊委員）

A：総乗客数を運行便数で割ると2.5人／便となる。

Q：定員を超えることによる予備車両の運行実績は？（渡邊委員）

A：なし。予備車両の運行は全て時間的理由によるものである。

4. 協議事項

平成29年度ナイトシャトルバス運行計画（案）について、観光課長より説明。

昨年度利用者数：10,736名、雪不足の影響もあり前年と比べて減少している。

今年度も18:00～23:54にかけて定時・定路線の4台体制とする。

～質疑・意見～

Q：1便あたりの平均乗客数は？（会長）

A：平均利用客は9.9人／便。最も多いのはレッドライン第一便の18.4人、少ないのはブルー

ライン最終便の2.8人。12月は約100人/日であるが、2月は190人/日であった。

Q：予備車両の運行回数は？（渡邊委員）

A：平成28年度はゼロ。

Q：雪の影響で利用客数は減ったが、外国人からの評判は良い。（白馬観光タクシー）

Q：住民も利用可能ということだが、割合はどれくらいか。（会長）

A：把握していない。

Q：外国人割合のカウントは？（渡邊委員）

A：ドライバーが数えているため、外見や使用言語で判断している。

Q：岩岳方面は利用者が少ないがお客さんも少ないということか。（会長）

A：そういった傾向は推測できるが、地ビールレストランのこともあり需要の掘り起こしも考慮して路線を選定している。

採決：可決（全員挙手）

5. その他

白馬村とSBドライブ(株)との連携協定について事務局より説明。

猿倉～御殿場～白馬尻の自動運転バス運行に向けて関係機関と調整中。

来年度、SBドライブと試乗イベントを実施したいと考えている。

日本三大雪渓である白馬大雪渓を観光に活用するために検討をしている。グリーンシーズンの魅力あるコンテンツとして期待している。（会長）

質疑なし

村内の公共交通の見直しについて

デマンド型乗合タクシーとナイトシャトルバスを運行しているが、少子高齢化や通学の安全対策など交通に関する要望も多く見直しを求められている。

来年度以降、要綱に基づいて検討委員会（18名以内）を設置して検討したい。

議会からも循環バスのようなものを考えてもらいたいという声が挙がっている。デマンド運行から10年が経過するということもあり、改めて検討したい。（会長）

白馬村の公共交通について、村民バスのようなものが欲しいという声や、観光客からも二次交通

の不便さが課題と言われている。アルピコ交通による路線バスや花三昧バスなども含めて体系的に検討できればと考えている。(副村長)

Q：何度かアンケートを取ったと思うが、最後はいつか。

A：大々的に実施したのは平成20年で、その後3年ごとに小さく実施している。

Q：村民がどういったものを望んでいるかを把握することが大切と考えるので、ぜひ実施してほしい。

A：アンケートや意見聴取など何らかの形で声を聴いていきたい。

Q：去年はタクシー待ちが1時間という状況があったが、今季はどうか。(会長)

A：高齢化や人員不足もあるが、前年度並みには体制を整えたい。(信州アルピコタクシー)

A：集中する時間帯は前年度よりも体制を強化したい。(アルプス第一交通)

A：昼食を取る余裕もないくらい忙しい。外国人が95% (信州アルピコタクシー労働組合)

A：バックカントリーを認めているコルチナへのお客さんが多い。往復1時間はかかるため、午前中7～9時、夕方5～7時などは不足してしまう。しかし、日中はそれほど動かないまで待機が増えてしまう。中信支部(大北・安曇野)に応援に来てもらうことも検討している。(白馬観光タクシー)

6. 閉会

風間副会長